

# 1 “資源蘇生”未利用資源を活かした地域づくり ～海藻アートの独自文化と子どもたちへの継承～



特定非営利活動法人  
利尻ふる里・島づくりセンター

北海道 利尻町



## 1 社会資本の概要

利尻町は、北海道の北部、日本海上にある利尻島西部に位置する町であり、北海道道108号線及び北海道道105号線は町内の南北を走る道路で、利尻山を挟んで利尻島東部に位置する利尻富士町にアクセスするための重要な主要地方道です。また、利尻町海岸は熊が寝ているように見える「寝熊の岩」があるなど、奇岩の多い海岸線として有名な

ビュースポットとなっています。

利尻町商店街の中心地に位置する「利尻島の駅」は、海藻押し葉体験工房、ギャラリーでの作品等の展示、カフェを併設するなど、地域住民と観光客の交流の場となっています。また、島の駅前の町道42号線は、島の駅を利用する地域住民と観光客が活発に往来する重要な生活道路となっています。



歴史的建築物  
「利尻島の駅」の外観



「利尻島の駅」  
海藻押し葉体験工房



雑海藻を収集する  
利尻町海岸(久連地区)

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「資源蘇生」をコンセプトに海の厄介者である雑海藻をアートの素材として活用することで独自文化を確立し、子どもたちに豊かな自然環境を継承する地域づくり活動をスタート。地元小中高生を対象とした海藻押し葉の体験教室、親子体験会等の取組を通じて次世代を担う子どもたちなどの郷土愛を育てています。

商店街に位置する歴史的建築物である旧海産問

屋を拠点「利尻島の駅」として再生し、施設内にコミュニティを重視したカフェ及び観光客や地域住民が自由に楽しめる体験工房の開設。また、幹線道路に16箇所スタンプ台を設置しての「利尻山十六景スタンプラリー」、島の駅前の町道を活用した「雪まるだ灯りフェスティバル」等各種イベントを開催するなど、地域活性化を図っています。



町道を活用した  
雪まるだ灯りフェスティバル



ボランティアによる雑海藻  
収集及び海岸清掃活動



親子体験教室

## 3 活動の成果や波及効果等

海藻押し葉は、20年間に渡り普及活動を行ったことで、北海道命名150年の式典に出席された上皇、上皇后陛下への北海道からの記念品に作品が選ばれ、利尻町の独自文化として位置付けが確立されました。また、海藻押し葉の作品づくりは、高齢者の生きがいになっているとともに、各種体験会等を通じて、子供から高齢者まで幅広い世代間交流を図っています。

歴史的建築物を島の駅として再生し、カフェ等を開設したことにより、島の駅利用者がコロナ前の2019年には7千人を上回るなど、地域の活性化が図られています。



利尻中学校総合学習による  
体験教室



高齢者と子どもたちの  
合同体験教室



「利尻島の駅」での  
街なみミナライブ



町道を活用した  
イベント開催

## 喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人  
利尻ふる里・島づくりセンター  
理事代表  
小坂 実

## コメント

特定非営利活動法人利尻ふる里・島づくりセンターは、地元の子どもたちをはじめ多くの地域住民に対し、地域資源を大切にすることを育むため、これまで約20年間に渡り、地道な普及活動を行ってきました。この度の受賞により、長年の取組が実を結んだことに大きな喜びを感じるとともに、身が引き締まる気持ちでいっぱいです。今後ともこの活動に自信と誇りを持って取り組んでまいります。

## 活動の内容

- 「利尻島の駅」に併設した体験工房での、海藻押し葉体験教室
- 「利尻島の駅」に併設したカフェの運営
- 利尻町海岸における雑海藻収集及び海岸清掃活動
- 「利尻山十六景スタンプラリー」「雪まるだ灯りフェスティバル」等の各種イベント開催
- 特産品開発、離島キッチン札幌店運営

## 活動の経歴

- 平成13年 利尻海藻おしぼの里づくり実行委員会設立
- 平成14年 海藻押し葉体験教室開始
- 平成19年 特定非営利活動法人利尻ふる里・島づくりセンターとして再結成
- 平成19年 歴史的建築物を「利尻島の駅」として再生

所在地 北海道利尻郡利尻町沓形本町

活動主体及び連絡先 特定非営利活動法人 利尻ふる里・島づくりセンター  
TEL:0163-85-7755

対象となる社会資本 利尻島の駅(建築物)／利尻町海岸(久連地区)／道道105号線及び108号線／町道42号線



- ① 利尻島の駅
- ② 利尻町海岸(久連地区)
- ③ 道道105号線
- ④ 道道108号線